

2004年11月12日

川端望

後期の予定

10/5	第8章 フレキシビリティ
10/12	休講（中国出張のため）
10/19	第9章 生産戦略
10/26	第9章（続）
11/2	第10章 人事・労務管理
11/9	第10章（続）
11/16	第11章 設備管理と生産技術
11/23	休日（勤労感謝の日）
11/30	第12章 購買管理とサプライヤー・システム
12/7	第13章 製品開発の基礎
12/14	第14章 開発期間とその短縮・第15章 開発コスト・開発生産性とその向上
12/21	第16章 総合商品力と開発の組織・プロセス
1/4	第17章 研究開発戦略・補論
1/11	第18章 まとめ：戦略的もの造り経営をめざして
1/18	未定

第8章 フレキシビリティ

労働者の観点から見て、フレキシビリティはどのような意味と影響を持つか考えよ。

第9章 生産戦略

収穫逡増の様々なパターンについて説明せよ。収穫逡増がはたらくことの経済学的意味を、競争と独占、効率性の達成、資源配分の最適化などの観点から考えよ。また、収穫逡増を活用した経営戦略の方向性を考えよ。その際、塩沢由典『複雑系経済学入門』第11章や、その引用文献を参照すること。

第10章 人事・労務管理

日本企業における多能工の育成が、企業にとっての価値を生み出していることは、園は反面として、多能工に対して、身につけた能力にしたがって賃金が支払われていることを意味するか。検討して見解を述べよ。その際、小池和男「知的熟練と長期の競争」、野村「知的熟練論の問題点」やその引用文献を参照すること。

第 11 章 設備管理と生産技術

バブル期の「人にやさしい工場」の見学記録である生産システム研究会「工場見学記録第 1 集」や Ogasawara and Ueda, *The Changing Nature of Japanese Production Systems in the 1990s and Issues for Labour Studies* を読み、3 社の戦略の違いとその結果をどう評価すべきか、テキストと照らし合わせながらコメントせよ。

第 12 章 購買管理とサプライヤー・システム

日本のサプライヤー・システムに対するテキストの評価に対して、第 7 章で見た「あいまいさ」と、それ故の合理性、それ故の問題点という観点を加えるとどのような修正や補足が必要になるか。植田浩史「日本的サプライヤ・システムとは何だったのか」やその引用文献を参照しながら意見を述べよ。

第 13 章 製品開発の基礎

シュムペーター『経済発展の理論』第 2 章（日本語もしくは英語）などを読み、彼の新結合概念（後の著作でイノベーションと呼ばれる）について解説せよ。そのさい、この概念がどのような経済学的枠組みと結びついており、それゆえにどのような特徴を持っているかを検討せよ。

第 14 章 開発期間とその短縮

テキストから自由に一つ以上の論点を引き出し、討論素材を提供するとともに、自分の見解を述べよ。

第 15 章 開発コスト・開発生産性とその向上

テキストから自由に一つ以上の論点を引き出し、討論素材を提供するとともに、自分の見解を述べよ。

第 16 章 総合商品力と開発の組織・プロセス

アメリカにおけるベンチャー企業の興隆と、日本におけるその政策課題化について、西澤昭夫・山田真巳「大学発ベンチャー企業と支援策の展開」、または Akio Nishizawa, *From Tech-transfer to University Start-ups: How Japanese Universities are Responding to New Policy Change* を参考に調べ、イノベーションと企業の性格について自分の見解を述べよ。

第 17 章 研究開発戦略

テキストから自由に一つ以上の論点を引き出し、討論素材を提供するとともに、自分の見解を述べよ。

第 18 章 まとめ：戦略的もの造り経営を目指して

「戦略的もの造り経営」という言葉をタイトルに含むレポートを全員が作成せよ。講義の時点ではレジюмеでよい。その後、文章化して最終レポートとして提出すること。成績評価材料とする。

< 成績配転 >

- ・ 通常の出席：20%
- ・ 講義中のレポートと討論への参加：40%
- ・ 最終レポート：40%

< 課題文献 >

塩沢由典『複雑系経済学入門』生産性出版、1997年、第11章。

小池和男「知的熟練と長期の競争」（今井賢一・小宮隆太郎編『日本の企業』東京大学出版会、1989年）。

野村正實「知的熟練論の問題点」（上井喜彦・野村正實編著『日本企業 理論と現実』ミネルヴァ書房、2001年）。

Masami Nomura, “A Critical Analysis of Koike Kazuo’s Skill Theory,” in Masami Nomura and Yoshihiko Kamii eds. (Brad Williams trans.), *Japanese Companies: Theories and Realities*, Melbourne, Trans Pacific Press, 2004.

生産システム研究会「工場見学記録第1集 生産システム研究会研究調査中間報告」『大阪市立大学経済研究所ワーキング・ペーパー・シリーズ』No. 9502、1995年4月（抜粋）。

Koichi Ogasawara and Hirofumi Ueda, “The Changing Nature of Japanese Production Systems in the 1990s and Issues for Labour Studies,” *Asia Pacific Business Review*, Vol. 2, No. 4, London Frank Cass, 1996.

植田浩史「日本的サプライヤ・システムとは何だったのか」（大阪市立大学経済研究所 植田浩史編『日本企業システムの再編』東京大学出版会、2003年）。

シュムペーター『経済発展の理論』（原書1926年、塩野谷裕一・中山伊知郎・東畑精一訳、岩波書店、1980年）第2章「経済発展の根本現象」。

Joseph A. Schumpeter, *The Theory of Economic Development*, Cambridge: MA, Harvard University Press, 1951, Ch. 2.

西澤昭夫・山田真巳「大学発ベンチャー企業と支援策の展開」（大滝義博・西澤昭夫編『バイオベンチャーの事業戦略』オーム社、2003年）。

Akio Nishizawa, “From Tech-transfer to University Start-ups: How Japanese Universities are Responding to New Policy Change,” in Ruth Taplin ed., *Exploiting Patent Rights and a New Climate for Innovation in Japan*, London, Intellectual Property Institute.